

札幌学院大学経済学部 20周年記念企画

講演会とシンポジウム

「人口減少社会における北海道」

11月18日(金) 13:10~16:20

E402 教室 (E館4F)

入場無料 事前申し込み不要

現在の日本は、人口が減少する時代に突入しました。あるシンクタンクの調査では、北海道の人口は、2000年の568万人から2030年には464万人に減少すると予測されています。このような人口の変化は、北海道の地域構造の変化をもたらすとともに、地域社会、地域経済の維持に大きな問題を投げかけられると思われま

す。今回は、中小の市町村に焦点を当て、人口の減少が地域社会、地域経済にどのような変化をもたらすかを展望するとともに、それに伴って生じる問題をどのように解決するか、今後の地域社会、地域経済のあり方を考えま

第1部 講演会(13:10~14:40)

講師 関 満博 氏 (明星大学経済学部教授、一橋大学名誉教授)

テーマ 「人口減少社会における市町村のまちづくり」

人口が減少する地域(中小の市町村)の現状を踏まえて、地域においてどのようなまちおこしが可能か、現場主義を重視する関先生に豊富な経験をもとに語っていただきます。

第2部 シンポジウム(14:50~16:20)

テーマ 「人口減少時代の北海道のまちづくりはどうあるべきか」

パネラー 宮谷内 留雄 氏(蘭越町長)

関 満博 氏(明星大学経済学部教授、一橋大学名誉教授)

安田 睦子 氏(インタラクション研究所代表)

コーディネーター 平澤 亨輔(本学経済学部教授)

人口が減少する市町村においてどのような問題が生じており、それにどのように対応するか、今後どのようなまちづくりが必要か、を現場で行政に携わっておられる宮谷内蘭越町長のお話を中心に、他の二人のパネラーとの議論を通じて考えていきます。

問い合わせ先: 札幌学院大学教務課(経済学部係) Tel 011-386-8111 (内線 3212,3222)

講師およびパネラーの紹介

講師・パネラー

関 満博 氏 (明星大学経済学部教授、一橋大学名誉教授)

専門は中小企業論、地域経済論。

1971年 成城大学経済学部卒業、1973年 成城大学大学院経済学研究科修士課程修了、1998年 博士(経済学)(成城大学)取得、1973年 東京都商工指導所勤務、1989年 東京情報大学経営情報学部専任講師、1993年 東京情報大学経営情報学部助教授、1995年 専修大学商学部助教授、1998年 一橋大学商学部教授、2000年 一橋大学大学院商学研究科教授、2011年 明星大学経済学部教授、一橋大学名誉教授

著書に『地域経済と地場産業』(新評論、1984年)、『フルセット型産業構造を超えて』(中央公論社1994年、第34回エコノミスト賞)、『空洞化を超えて』(日本経済新聞社、1997年、第19回サントリー学芸賞)、その他多数。

パネラー

宮谷内 留雄 氏(蘭越町長)

1976年 自治大学校卒業

1957年 蘭越町役場勤務、1988年 蘭越町長に就任、現在に至る

北海道町村会副会長、北海道道路整備促進協会会長、北海道公立文教施設整備期成会長、北海道市町村職員退職手当組合長、北海道農業会議常任会議員、後志町村会長、後志広域連合長

パネラー

安田 睦子 氏(インタラクション研究所代表)

1974年 小樽商科大学商学部卒業、1974~1982年 札幌市役所勤務、1996年 北大大学院経済学研究科修士課程修了、1999~2002年 (株)地域開発研究所 取締役社会調査室長、2002年より現職、このほかに北海道地域づくりアドバイザー、北海道生涯学習アドバイザーとして活動。

専門分野は防災、地域福祉、観光、食、男女共同参画をテーマにした社会調査および地域計画。調査報告に、「地域福祉ニーズ調査」、「新しい公共のあり方に関する調査業務」(ともに札幌市、2006年)、「オホーツク「食」の地域ブランド戦略マーケティング調査業務」(北海道、2010年)などがある。

コーディネーター

平澤 亨輔 氏(札幌学院大学経済学部教授)

1982年 北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学、1984年 札幌学院大学商学部助教授、1999年 同大経済学部教授、現在に至る。

共著書に「拓銀破綻後の北海道経済」(日本経済評論社、2008年)

